

第 1 回 西蒲区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 27 年 9 月 30 日(水)午後 2 時から午後 3 時 30 分まで
会 場	巻地区公民館3階 小ホール
出席者	西蒲区自治協議会委員 出席 23 名 教育委員 織田教育委員、眞谷教育委員 事務局 教育総務課長・補佐、地域教育推進課長、教職員課副参事、巻地区公民館長、 西蒲区教育支援センター所長・主任・指導主事
議 事	<p>1 開会</p> <p>2 教育委員代表挨拶 織田教育委員</p> <p>3 出席者紹介(眞谷教育委員、事務局)</p> <p>4 総合教育会議の概要について</p> <p>5 意見交換</p> <p style="padding-left: 2em;">テーマ「地域と学校の連携について」～地域の子どもは地域で守り育てる～</p> <p>巻地区まちづくり協議会</p> <p>区域内の学校は 9 つでコミュニティ協議会の組織上、各学校と連携した活動が難しい。「まき夏まつり」では、巻北・巻南小学校はブラスバンド、巻東・巻西中学校、巻高校は吹奏楽部、支援学校がパレード参加。「やかた竿燈」では新潟県農業大学のOB、生徒たちの竿燈が 2 つ出た。各小学校、PTA及びその他団体の方々を中心にまちづくり協議会の防犯・防災部が主催し、祭りの夜の見守りをした。これらの活動は子どもたちにとってよい経験になり、郷土愛を培うよい思い出になると思う。</p> <p>学校が複数あり、コミュニティ協議会としてまとまったの活動がなかなか難しい。幸い 26 の自治会長がまちづくり協議会の委員で、一体となっている。</p> <p>各自治会長が各小中学校の後援会理事で、小中学校との連絡が密。各地区の活動を含む地域の児童生徒の諸活動に、理事を含め各自治会が携わっている。登下校における交通安全指導、見守り、老人クラブ等や自主防災組織の中で児童生徒の活動を取り入れているところなどがある。</p> <p>このような活動がより多くなることを期待しつつ、2 か月に 1 回まちづくり協議会で定例理事会を開催。情報交換、議論等を中心にまちづくり協議会の活動のあり方を模索し、地域の発展、特に未来を担う児童生徒の育成に努力していきたい。</p> <p>漆山地域コミュニティ協議会</p> <p>漆山小学校区は 23 自治会がある。学校から登下校の生徒を見守る見守り隊を発足したいという依頼を受けた。自由な時間に通学路で見守ってと募集し、コミュニティ協議会名で二次募集をしたところ合計 50 名程度集まった。私はコミュニティ協議会会長だが、他に自治会長、民生委員の方もそれを兼務しながら学校に名簿登録し、4</p>

月に始動。学校評議員会の際、学校から大変助かりますという話があり、出席者から「今日、あの子の姿が見えないけれども、どうしたのだろうね」という具体的な話もあった。漆山コミュニティ協議会、自治会と学校の見守り隊は成功していると思う。

漆山では漆山大祭があり、9自治会が漆山の通りを通行止めにして山車行列をする。漆山地域外の子どもたちも神社等に遊びに来るため、そちらの自治会長に、露天商の方と話をし、注意をして見守ってくださいといった依頼をしている。

峰岡地区コミュニティ協議会

北小のセーフティ・スタッフ事業として、「北っ子見守り隊」に取り組んでいる。平成27年3月25日に発足、4月7日より活動開始。事務局は学校に置き、教頭を中心に進めている。7時から8時まで登下校指導。登校時の子どもたちの様子を確認するとともに、安全に登校できるように指導している。

どの地区でも特に問題になるのがあいさつ運動。とかく大人は子どもにあいさつをしなさいと言うが、子どもたちは自然な形であいさつをしたいもの。担当者情報交換の懇談では、今まであいさつ運動をしたことがなく、「あいさつをしなさい」というと反発する子が多かったが、夏休み前にはみんな素直にあいさつをしてくれたと聞いた。

見守り隊は20名くらい。峰岡地区で自治会長を通じ登録を呼びかけているが、登録していなくても登下校時に立っている方が大勢いて非常にありがたい。ジャンパーや帽子をセーフティ・スタッフは非常に安い、雨が降ると雨漏りがするようなものでやっている。ぜひ市から貸与してほしい。

巻北小学区で、今は年間を通じて2,000名ほどのボランティアが各行事を司っている。学校も門を開けて、地区のほうも戸を開けておこうと。我々も学校に行って話ができる。巻南小もそうだが、そういった体制を作り少しずつ変わってきている。

常に学校と地域が連携するために、コミュニティ協議会を通じた学校連携を心がけている。バス通学に役立つよう防水の40万円以上する時計を消防署に設置。新聞にも出たが、PTAから消防署に時計があると児童に非常に役立つと、校長が要望をもらった。コミュニティ協議会全体で運動してお金を集め、素晴らしい時計が消防署の前に建った。学校、地域の連携が非常に進んでいる結果と思う。

峰岡藩の米百俵の精神、当時の思いや歴史を学ぼうと、毎年、巻南・巻北小学校の児童、保護者、地域住民で三根山藩米を作っている。先日収穫祭では市長も来て盛大に試食をした。10月長岡の米百俵祭に参加する。米百俵精神を地域の人たちが子どもたちに教えている。長岡市は大きい予算をつけているが、新潟市は米百俵精神を本当に理解していないのでは。予算がついているのはありがたいが、予算をもっと増やし、向こうに行って、そういったことを語ったりすることが大切ではないか。

セーフティ・スタッフや地域との連携では、小さいことでも、学校の先生、PTAが話をする。地域の人がそれに取り組んでいくとことで非常にいい成果が出ている。

司会

巻地区まちづくり協議会では、まとまった活動はなかなか難しい。まき夏まつりの各小中高校の参加や、登下校の見守り、防災などの活動をしているとの話ですが。

自治協委員

小中高校の子どもがいないため直接かかわることはないが、コーディネーターを通して毎月、学校の行事予定などの文書が全戸に回覧板で回っている。それで学校の動きが分かる。コミュニティ協議会もそういうものを参考にして、ほかに何か支援できることがあれば、コーディネーターを通じ協働でやっていったほうがいいのでは。

今年度第1回の自治協議会の広報が出たが、この中にある青少年育成協議会の活動は市から補助金や助成金などが出ているのか。

教育委員会事務局

出ています。

自治協委員

青少年育成協議会の趣旨に賛同する方は支援してくださいという回覧板が回る。強制的なものではないから回覧するのはいいが、自治会の班長が支援してくれませんかと回る。来られると、支援しないとまずいかなという雰囲気になってしまう。

自治協委員

袋に趣旨が書いてあり、だいたいいくらいを入れてくださいというものがある。社会福祉協議会や育成協などから自治会長に依頼が来ると、その袋を各班長に渡し、各班長から各家庭に配布回収していただく。年度当初の班長会議のとき、これは全員が必ずするわけではないということをはっきり伝えた。しかし、趣旨が分かっていただけに、回収に至っては回ってくださいと。断られたらそれはそれでいいと。9月に社会福祉協議会の募金があったが、1戸500円程度。私たちの自治会は全部で82戸、うち回収されたのが59。回収で断られたらそのまま帰ってきてくださいとある。しかし、今のお話のように回ってくると、なかなかそういうことができないかもしれない。ある班では班長のところへ持ってきてもらう方法を取り、だいたい12軒中で4軒くらいが持ってきた。回収に回ると、持ってきてもらうでは相当違ってくる。

司会

漆山地域コミュニティ協議会ですが、見守り隊を結成して活動していると。漆山大祭などにも参加といった報告がありました。

自治協委員

私よりも高齢の方がかなりたくさん参加されており、非常にありがたいことだと思っている。私もできれば参加したいとは思っている。

自治協委員

先ほど、もっとほかの部分での関わりをという話があったが、コミュニティ協議会への関わりが1年くらいなので、少し見当違いな話をするかもしれない。

巻地区でも活発にやっている、カーリンコンというニュースポーツを漆山コミュニティ協議会では地域を挙げて実施。年に4回「子どもカーリンコン大会」を夏休みと冬休

みに、「大人のカーリンコン大会」を春と秋に実施。募金のように回覧を回すが、なかなかすぐには集まってこない。先ほどの回収ではないが「どうですか」と声かけをすると、迷っていた人も参加してくれる。これまでに3回くらい大会運営側として参加したが、若干の補助金があり参加賞があるので、子どもたちも大変喜んで参加している。

今年度新しい試みとして、子どもたちが朝ごはんを食べないというのはまずい、朝ごはんの大切さを伝えたいと、食推の方のお手伝いで「おはよう朝ごはん教室」を実施。最近流行のおにぎらずを作りみんなで食べた。感動したことは、子どもが参加するカーリンコン、親子朝ごはん教室、いずれも校長先生が顔を出してくださった。校長先生も一緒に試食し、子どもたちもとても喜んでいて、これも地域と学校のかかわりの一つの例ではないか。

司 会

峰岡地区の取組み、見守り隊の関係やバス通学のための時計の設置など、子どもたちを支援している活動についてお願いします。

自治協委員

祭りでも何でも、各地域でやっているものはいろいろあるが、峰岡地区はそのなかでも特徴のあるものに絞ってお話をしたということでご理解いただきたい。

教育委員

どの地区もそれぞれに工夫をこらして、地域と学校とが連携する、地域全体で子どもたちを見守り育てていこうという取組みをたくさん聞かせていただいた。この場で発表しなかったけれども、日ごろから常にずっと地域で子どもたちを守ってやってきているというお話もありました。それが発表の中にもきちんと醸し出されて、大変いい地区で、子どもたちは幸せだと思いました。

地域の行事に校長先生が来てくれたということは、とても価値のあること。子どもたちも喜ぶし、地域の皆さんも、校長先生が地域に顔を出してくれているということで、より一層地域と学校との結びつきを実感できるというお話がありました。とても参考になりました。ほかの地区でも宣伝したいと思います。こちらの地区では校長先生がきちんと地域の行事に参加しているから、みんないい子に育てているのだと、よそへ行って自慢したいと思います。ありがとうございました。

松野尾地域コミュニティ協議会

平成26年度の学校との連携事業は、松山春まつりで5、6年生の俳句を神社に掲示、マラソン記録会後の上堰潟クリーン作戦、田舟体験、いろはの里盆踊り、運動会のお囃子、踊り参加、松野尾小学校文化祭での出品、知と技と運の競技会、西山川で鮭の稚魚の放流、松野尾の歴史や上堰潟にまつわる出前授業など、主に小学校の地域教育コーディネーターを介しての取組み。

にぎわい事業ではセンターで書道や工作の展示を行い、親子ふれあい事業の七夕、ひな祭りなど季節のイベントでの作品制作や交流、コンサートや親子遊びなど。

セーフティ・スタッフ事業では、9人のボランティアが子どもたちの登校を見守って

いる。屋外での作業等が多い地域住民の方々へ、仕事しながら子どもたちへの目配りをお願いしている。

事業に参加することを毎年張り合いにしている方がさまざまな活動を通して、住民同士の交流もさらに深まっている。

今後の課題としては、中高生、若い世代との連携が不十分であること。昨年から小学校の運動会に中学生ボランティアが参加したが、地域防災訓練には中高生の参加がなかった。継続的な実施の問題や、参加する方や世代に偏りがあるように感じる。小さな地区なので、子どもの顔と名前が分かりやすいというメリットを生かし、若い世代が関心を持つための働きかけ、呼びかけを今後どのように進めていくかが課題。他地域の事例を参考に、地元の特徴を生かした取組みを検討していきたい。

角田地区コミュニティ協議会

越前小学校の地域と学校パートナーシップ事業活動を始めて8年目。自然豊かな角田地区は海の環境保護活動として、毎年6月に海岸のクリーン作戦を継続して実施。今年は学校関係、コミュニティ協議会、地域ボランティアで100名近くの参加があった。以前、巻漁港の壁画に全校児童とコミュニティ協議会有志で環境保護の壁画を製作した。かつて塩作りをしていた地域の伝統から、塩作りをしながら全校での海水浴、漁船の乗船体験など、コミュニティ協議会と地域の協力がなければ実現できなかったことを3回実施した。4回目は台風の影響で中止を余儀なくされ、その後は指導者の高齢化で断念している。

地域を花で飾り隊という活動は、新潟市地域活動助成金の補助を受け実施。今年で8年目になるこの活動は、チューリップ栽培農家の協力で実施しており、越前小学校の児童が10月末に球根を植えて校内で栽培し、冬休み直前に一人暮らしのお年寄りやお世話になったボランティアの方に届けている。小正月前後に咲き始め、2月末ごろまで楽しめる冬咲きチューリップで、寒い時期に心温まる、うるおいのある環境を提供してきた。助成金の一部で地域の方が通学路沿いにパンジーを植栽する活動で、年間を通して花が地域と学校をつないでいる。

地域の方は子どもたちと一緒に体験学習できる地域の学び場として、昨年からは浜の学校の活動を企画運営している。活動助成金の支援を受け、学校や地域の公共施設を会場に笹団子作りとわら工芸体験教室を実施。学童保育がメインで、地域全体に案内している夏の浜の学校では、新聞紙で作る大きな風船のようなものでドームを作り、その中で何人も子どもが入って遊べるものを、これまでに3回実施した。

カーリンコン大会や工作教室、コミュニティセンターを利用したミニ観劇会には、地域の福祉施設にも声かけをして、3施設より子どもやお年寄りが参加。浜の学校夏休み企画は、学童の子どもたちがそれ以外の人とかかわって体験できるよい機会になっている。また、希望者親子で学校の畑の一部を借りて、サツマイモを育て、冬に干し芋を作る企画の「浜めぐり」という活動で食品乾燥機を購入し、ゆくゆく地域に干し芋づくり友の会ができ、販売できるようにしたいと考えている。

セーフティ・スタッフは、児童の祖父や民生委員が主なメンバーだが、孫が卒業した後も継続してくださる方もいる。スタッフジャンパーのキャラクターの変更に伴い、昨年、コミュニティ協議会でジャンパーを新調した。コミュニティ協議会との連携した

活動で、子どもたちは地域大好き、学校大好きの心をはぐくんでいる。

岩室コミュニティ協議会

コミュニティ協議会、一般の方のボランティア、公民館との協力関係から、それぞれ主なものを一つずつ挙げ、成果と課題について話したい。

地域との関わりでは、子どもたちからあいさつを交わすようにと、スマイルキャンペーンとして、春秋2週間ずつ通学路の要所や学校の校門前などで、地域の方が子どもたちとあいさつを交わしている。最初は恥ずかしがったり、あいさつのできなかった子どもたちもいたが、回数を重ねるにつれ元気よくあいさつができるようになった。これも継続していく必要があると、今年度も取り組んでいる。

地域の方によるボランティア活動。農作物の種まきから収穫までという栽培を通して地域の人々と関わっていることが、非常に大きな成果を得ている。米づくり、枝豆やサツマイモ、里芋などを栽培しながら、作業を通して地域の方とふれあっている。最後に収穫祭をするが、枝豆を食べたり、芋煮会、あるいは焼き芋大会、最近では米粉を使った地域の伝統料理の一つ「しんこ団子」という、マゴメと餅米の一定の割合によって、昔の団子を再現して作り味わうということをした。この団子は翌日になっても固くならない、やわらかいという非常に不思議な団子で、子どもたちにも好評。

公民館との協力関係では、料理に関する料理教室、本の読み聞かせ、布草履作りといったことを地域の方が小学校の子どもたちに教えたりしている。

ボランティアに参加した人がよかったと感じ、それが地域に広がっていく。そうすると、地域に伝わり新しい人材が確保される。ボランティアもだんだん充実してくる。非常に今、いい傾向にある。地域の人と活動することで、学校の内外を問わず、あいさつを交わすようになったり、あるいは親しく会話ができるようになった。さらにボランティア同士のつながりもいい関係ができ、ボランティアが進んで学校に来るようになった。ボランティア同士による懇親の場があり、酒などを酌み交わしてさらにつながりが強くなったということもあり、そういうこともまた大事なことかと思っている。

これらについては、地域教育コーディネーターの力が非常に強いと思っている。コミュニティ協議会としても、毎月、定例的に役員会を開いているが、今年からコーディネーターの参加もお願いし、いろいろ情報交換をしている。

今後の取組では、保護者には徐々に浸透しているが、自治会長のほうへの周知も図っていきたい。岩室地域は点在している集落が非常に多く、子どもが少ない、あるいは全く小中学生がいないという集落もあり、だんだんと学校との縁が薄れているようだが、もう少し自治会長との連携を深めていきたい。

学校の空き教室がこれから増えるが、それを活かし、地域の人々の居場所づくりに力を入れていきたい。岩室小学校はひまわり分野やふれあいの分野、あるいは寺子屋の教室といったものが毎日行われている。地域の人々がそこに加わり、日曜、祭日・休日、年末年始以外の毎日、だれかが子どもたちとふれあっている。そういう状況に非常に恵まれているのではないかと思う。

寺子屋は西蒲区長の提案事業だが、この学習支援で教育経験者が宿題などを教えたり、あるいは自由学習にいろいろと加わっている。子どもたちも喜んでいるが、親が一番喜んでいる。非常にいい傾向である。

岩室小学校では、和納小学校もいろいろと地域の人と関わっているが、大きな事業を年間を通して関わるということがある。どちらがいかは別にしても、それぞれ地域性、地域に合った地域とのかかわりを持ち、学校も一生懸命やっている。

中学校では、この地域が平野部の農村と駅周辺の住宅街、それに日本海の海岸沿い、そして温泉地域の4つに分類される。子どもたちは地域の中で、非常に明るく、素直、親切である。与えられたことは熱心に取り組むところも、昔からの地域性からそうだろうと理解ができる。パートナーシップ事業も、地域との連携を重視し、主なもので岩室は灯籠流し、クリーン作戦、少年の主張発表会。

中学校の課題は、小学校と同様に子どもたちが非常に少なくなってきたこと。登下校の親の送り迎えが非常に多くなっている。ちょっとした天候でも、そういう傾向にある。それも1つの大きな課題。

教育委員

昨年からは西蒲区担当となり、区ミーティングや小中学校を回らせていただき、地域と学校との結びつきが非常に深いということをつくづく感じています。

西蒲区は旧町村がそのまま中学校区になっているところが多いです。そのため中学校区ごとの結びつきが非常に強いのだと思います。できれば今日のこういう会合を今後も持っていていただき、いろいろな地域からの発表、例えば、セーフティ・スタッフで登下校を見守っていただいているボランティアのジャンパーの件では、角田から、コミュニティ協議会で購入したというご意見がありました。峰岡で、それについて困っているというご意見がありました。このように、区全体での問題点をそれぞれ出し合い、話し合っていただけるような場がこれからも継続してあると、よりよくなっていくのではないかと思います。

松野尾では中高校生との連携が少なくなっているという話が出たと思います。巻地区のご意見の中で、さらっとおっしゃったのですが、自主防災組織の中に小中学生を組み込んでいる地域があると。いろいろな中学を回っていると、それができなくて皆さん困っていらっしゃる。その地域がどのようにしてそれをなさったのかというノウハウを、ほかの地域にも広めていただけると、それぞれの地域ごとに解決の方向に向かう可能性もあるのではないかと。ぜひそういうことをほかに広めていただければありがたいと思います。

西川コミュニティ協議会

スポーツ部会では、子どもから大人まで地域の皆さんが気軽に参加でき、楽しめるイベントを企画。主なものでは8月1日実施のやみつきウォーク。夏の涼しくなった夜7時半に出発して5キロほど歩いた。子どもから大人まで参加し盛り上がった。

稲刈り後の田んぼを借り、ぬかるんだ中で長靴で田んぼサッカーをする。サッカーの上手、下手は関係なく、子どもから年配の方までチームがあり盛り上がっている。

各小中学校を通して参加者を募るが、先生方も多忙なので、地域コーディネーターの存在がとてもありがたい。橋渡しいいただき、こちらも話しやすく助かっている。

環境整備部会では、曾根小学校環境整備で6月上旬に曾根小前のプランターに花を植えて並べる作業を子どもたちがしている。「西川流域サミット」という西川をき

れいにする目的で、西蒲区だけでなく、西川流域の西区の小学校とも協力して、合同で鯉の放流を行っている。

教育文化部では文化講演会。過去の例では、甲子園準優勝の日本文理高校野球部の大井監督を招き講演。前古川商業バレー一部監督国分秀男さんを招き、地理的にも恵まれない東北の地にあつて10回の全国制覇に導いた指導者ということで、本当に感動的な、小中校生の野球部やバレー部に限らず、生徒たちも大変興味ある内容の講演はとても有意義なものだった。今年は25日に、ダニエルカールさんを招いた講演会。ぜひ皆さん、お子様連れで来ていただきたい。

安心安全部会では、春、秋、冬の交通安全街頭指導、夜間青少年街頭指導などによって、子どもたちを事故、犯罪から守る活動をしている。

コミュニティ協議会でも小中学生を対象とした興味の持てる内容を企画。子どもから年配の方までファミリーで参加できるもの。それによって、地域と子どもたちとのふれあいの場が増え、家庭、学校だけでなく、地域全体で子どもたちを守り育てていくという環境づくりにつながっている。地域の活性化にも将来を担う子どもたちのパワーが必要。お互い持ちつ持たれつのでよい関係を築いていけたらと思う。

潟東コミュニティ協議会

ほかの地域と内容がほとんど似ているので、簡単に申し上げたい。

学校関係では教育・文化部会が入っており、構成メンバーは青少年育成協議会、PTA、地域スポーツ振興会、学校教職員、文化団体協議会。

コミュニティ協議会には学校が3つあり、個々のことについては文化部会に任せ、総会のときに発表を聞く。中学校では連携会議を年一回実施。学校の評価委員もある。特に連携会議は自治会長が全員、連携会議の委員。最近少し聞かないがいじめ問題、中学校では夏場の遊びの問題。そういったことに対処するために、班を組んで回り売店などへ行き、何か悪いことをしていないか、遊んでいないかと、担当を決めて見にいき、もし何かあれば注意するというをしている。

小学校でも様々な問題がある。校長先生によって、いろいろないい考えを聞かせてもらうことがある。先ほど酒を飲むという話があった。料亭で飲めば5千円から1万円かかる。ある校長先生が5千円、1万円ではもったいない。先生方が出られないということで、公民館を借り、教職員の方が全員参加する。PTAはもちろん、学校連携は自治会長、副会長が入っている。そのほか一般の住民も希望者を全員呼んでいろいろな意見を出してもらった。そうした参加者も多いし、ボランティアの方も何十人も出してもらった。酒の席ではいろいろな意見が出る。酒を飲むと本心が出るかと思うので、そういった意見を参考にやってくる。

セーフティ・スタッフ。募集などの話があるが、自分たちでさせてくれないかと。募集しないで立候補というか、自分たちでやるということどうなっている。

小さいことを言うときりがないが、来年から小学校3校が1校に統合する。統合したらどうするというのを今、3つの学校の統合実行委員会で相談している。来年、もしこういう機会があったら発表できると思うが、期待していただきたい。

中之口コミュニティ協議会

皆さんから話がいろいろあり、こちらも同じであるのでそこは省略する。

中之口地区はバレーボール大会で小学生が全国優勝した。保護者会は大会参加費を集めるのに苦労していた。中学校もバレーボールなどの大会で子どもたちが頑張っている。旧中之口村では補正予算を組み、頑張れと面倒を見てきたのだが、新潟市では選手、レギュラーの分は見ても、ベンチに入れない子どもたちや保護者は自分たちで行くしかない。せめてベンチに入れない子どもたちの分も何とかならないかなということが大きな要望。その辺、検討・配慮をお願いしたい。

中之口中学校 50 周年で、新校舎、グラウンドができた。非常に喜んでいる。これにかかわる地域の人たちの話。平成 23 年度に懇談会を立ち上げ、中之口地域の各種団体の担当者が 52 人集まり各界各層の意見をお聞きした。いろいろな意見が出たが、子どもたちの数が少ない。中之口東小学校や西小学校では各学年 20 人から 30 人。近い将来、複式学級あるいは学校の統廃合をどうする、そういったものが一番大きなところ。大所高所から忌憚のないみんなの意見を聞いて、統合の問題、メリット、デメリットをみんなで考えた。基本的なたたき台の上に乗って、今度は改築基本計画を地域で作上げた。正式の会議が 5 回、事務局との事前打合せが 5 回、長嶺小学校などを 2 か所見学し、いろいろな活動をした。データを参考に意見をまとめ地域の要望としたなかでは、学校の地域開放について、いかに地域の皆さんから学校を使ってもらえるか。中之口で一番大きなしっかりした建物は中学校であるので、避難所としての位置づけをどうするかということをもみんなで真剣に考えて、100 点満点の 120 点がもらえるよう頑張り、学校が建設された。

50 年前には中之口中学校を作るために先人が非常に苦労し、永年苦しんだが、合併したおかげで順調に進んだ。合併建設事業で、ちょうど 10 年目に学校が完成した。地域としては非常に喜んでいる。今日、小学校のマラソン大会があり、見に行ったら子ども数が 1、2 年生を入れて 20 人程度。父兄や祖父母まで入れると 1 人の子どもに 3 人も 4 人もみんなが集まったというような状況で、盛大なマラソン大会だった。子どもたちを応援するために、新潟市からも頑張っていたきたい。

教育委員会事務局

たくさんいいお話を聞かせていただきました。それぞれのコミュニティ協議会がその立場で学校としっかりと手を組んで将来、未来を担う子どもたちのための環境づくり、人づくりを進めていただいています。

学校はもう学校単体ではなく、地域とともにあるということで進めています。学校にかかわっていただく地域の方々がいるこそ、地域ぐるみの教育が進んでいくということになります。いろいろと学校に行き伺ったお話で、ボランティアに参加してとてもよかった。そういうご意見をお持ちの方がいて、その方がさらにまた新たなボランティアをはぐくんでいく。こうすることで、学校が注目を浴びる。そして地域の皆様方の協力を得ながら、地域づくり、そして子どもたちの未来を作っていく。こういう循環が生まれているのだということがよく分かりました。

学校は、地域の学びの拠点の一つでもあります。パートナーシップ事業では、学校は地域の学びの拠点でもあるということも進めています。いろいろと大人が参加する

体験活動、学習、講座などがあって、そこで子どもたちとの交流も進み、また大人の交流も進み知り合いが増えていく。こういうことがさらに続くことで、地域とともに歩む学校づくりが進んでいます。このパートナーシップ事業を西蒲区ではうまく活用していただいていると感じました。これからも、さらにたくさんの方々から、子どもたちにかかわっていただきたいと考えておりますので、どうぞご理解とご協力をお願いします。

パートナーシップ事業や地域教育コーディネーターや学校支援ボランティア、こういう方々の市民の認知度がまだまだ低いところです。できるだけ学校には参加の場をたくさん作っていただきたい。居場所を作っていただきたいということをお願いしておりますが、ぜひ今日、参加した皆様方からもパートナーシップ事業を宣伝していただければありがたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

自治協委員

地域で守り育てることはけっこうだが、大阪の寝屋川で中学生が夜中に事件に巻き込まれたのは記憶に新しいところ。中学校は門限があるのか。

西蒲区教育支援センター

学校で門限が何時と決めてあるところはないと思います。それぞれの家庭の事情に任せてあると認識しております。もちろん、各学校では児童生徒の安全にかかわることなので、長期休業前や地域の過ごし方など適宜指導を行っています。

6 自治協議会会長挨拶

最初に市の教育大綱について示された。大変ありがたいことだと思うし、これを大事にしていかなければならない。各コミュニティ協議会から具体的な事例をいただいた。いいところはみんな取り入れて、自分たちで消化できるところは消化していくというやり方で、私たちが受け止めていきたい。それが、これからの子どもたち、未来の担い手を育てていく大きな仕事になる。パートナーシップやコーディネーター、ボランティアといろいろあるが、そのどれを取り上げてもいい。学校現場、そして子どもたちがよくなるようにということを願い活動していかなければならないと思った。

7 閉会